

今日のトピック 引き続き堅調な米国の雇用統計（2016年9月） 市場予想には届かなかったものの、雇用、賃金とも堅調

ポイント1 雇用者数は15.6万人増 3カ月移動平均は19.2万人増

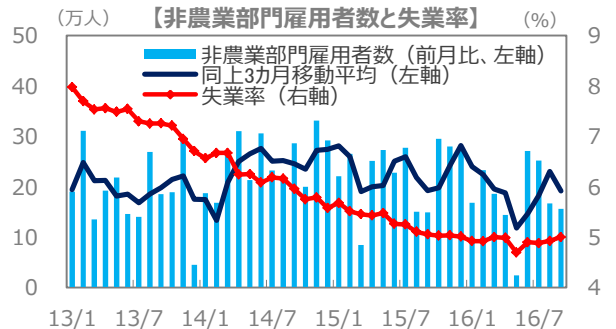
- 2016年9月の非農業部門雇用者数は前月比15.6万人増となり、市場予想（ブルームバーグ集計）の同17.2万人増を下回りました。
- もっとも、8月の雇用者数が速報段階の同15.1万人増から同16.7万人増へと上方修正されたことを踏まえると、9月の雇用は実質的には事前予想に沿ったものだったと評価できます。雇用者数の3カ月移動平均は19.2万人と、20万人を割り込みました。

ポイント2 失業率は5.0% 賃金上昇率は前年比+2.6%

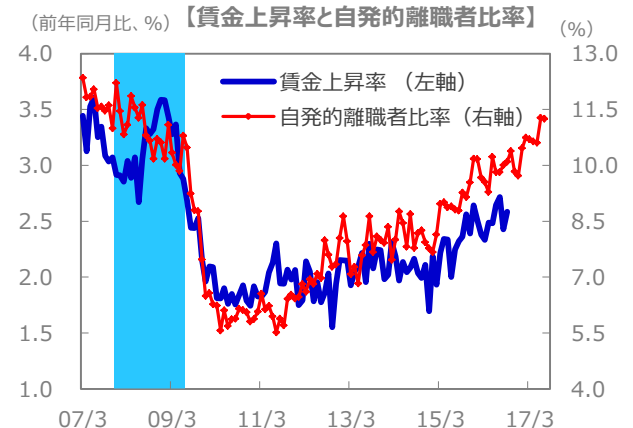
- 他方、失業率は5.0%と前月（4.9%）よりやや上昇しました。就業者は増加しましたが、労働力人口の増加がそれを上回る形となりました。
- 賃金上昇率は前月比0.2%増、前年同月比では2.6%増とほぼ市場予想通りの伸びとなりました。労働需給が引き締りつつあり、賃金は今後も緩やかに上昇する見通しです。

今後の展開 株、債券まちまちの反応

- 今回の雇用統計の結果を受け、年内の利上げの可能性は後退しなかったと見られます。ただし、11月のFOMCでの利上げ観測は後退しました。こうしたことから米国債券市場は上昇（利回りは低下）しました。
- 一方、米国株式市場は、発表当日の7日は下落したものの、週明けの10日には上昇に転じました。
- 今後、賃金や物価の上昇率が低い水準で安定していることから、利上げは非常にゆっくりとしたペースにとどまる可能性が高いと考えられます。このため、株価は当面景気や企業収益の拡大を織り込む展開が続くと予想されます。国債利回りは低位で推移するものの、12月の利上げの可能性を睨んで神経質な展開となる見通しです。



(注) データの期間は2013年1月～2016年9月。
(出所) 米国労働省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注) 賃金上昇率は2007年3月～2016年9月。
自発的離職者比率は2006年5月～2016年9月。
自発的離職者比率は10カ月先行。網掛けは景気後退期。
(出所) 米国労働省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2016年10月 6日 上向いた米国のISM景況感指数 (2016年9月) 2016年10月 5日 堅調な米国の地方債市場 (2016年10月)

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。